

## 市指定文化財・板碑一覧

みだいつそんむさしがたいたび  
【弥陀一尊武蔵型板碑（観音寺）】昭和57年8月5日指定



この板碑は、緑泥片岩製の幅の狭い武蔵型の板碑で、下部は欠損していますが、長さ70cm、幅26cm、厚さ1.4cmあります。表面には横2本の線刻の下に、天蓋、キリーク（阿弥陀如来を示す種子・梵字の組み合わせ）、蓮華座と建治元年（1275）12月の紀年銘が刻まれています。

みださんぞんしもふさがたいたび  
【弥陀三尊下総型板碑（光明寺）】昭和57年8月5日指定



この板碑は、黒雲母片岩製の幅広の下総型板碑で、長さ110cm、幅48cm、厚さ3cmあります。表面の中心に阿弥陀如来、右に勢至菩薩、左に観音菩薩を象徴する種子を配し、それらの上に発心門、右側に報身（胎蔵界大日）真言と左側に金剛五仏の梵字が刻まれています。三尊の下には「極重悪人 無他方便 唯称念佛 曆応四年四月十日」の銘があります。

※曆応4年は1341年

いたいしとうぼ  
【板石塔婆（迎福寺）】昭和51年6月1日指定



この板碑は、黒雲母片岩製で、長さ117 cm、幅93 cm あります。十三仏種字と造立の趣意が刻まれた下総型板碑で、下総型の十三仏種字板碑としては古く、大型です。十三仏とは死者の年忌をつかさどる13の仏を指し、永和4年(1378)に沙弥道妙、妙一という夫婦が自身の逆修供養(生前に死後の供養を自ら行う)のために造った銘が刻まれています。

いたいしとうぼ  
【板石塔婆（個人）】平成3年5月8日指定



この板碑は、粘板岩製で、長さ64 cm、幅22 cm あります。阿弥陀一尊を示すキリークと文和2年(1353)7月の銘が刻まれた武蔵型板碑です。